

令和4年度 第1回田原市図書館協議会議事録

日時：令和4年5月24日 午後2時～午後4時

場所：田原文化会館204会議室

出席者：協議会委員7名

(本田、中島、別所、一ツ田、内浦、小澤、永田)

事務局3名(是住、朽名、宮嶋)

議事内容

- ・開会
- ・館長あいさつ
- ・委員長の選出
- ・協議
 - 1) 令和3年度田原市図書館事業評価(案)について
 - 2) 令和4年度田原市図書館事業計画(案)について
- ・その他

事務局：それでは、令和4年度第1回の田原市図書館協議会を開催させていただきます。本日は、お忙しいところお集りくださりましてありがとうございます。ただいまの出席委員は、6名でございます。過半数を超えており、協議会は成立いたします。次第に沿って会議を始めさせていただきます。

では、開会にあたり館長から挨拶させていただきます。

館長：みなさん、こんにちは。本日はお忙しいところ、図書館協議会にご出席いただきましてありがとうございます。

今回はコロナウイルス感染者数が田原市内でも多くなってきていた時期でもあり、書面開催とさせていただきました。新しい年度となって、第一回目の協議会は集合で開催でき、嬉しく思います。

今年度は田原市中央図書館が開館して20周年の記念の年となります。昨年には『市民とつくる図書館』という本に、20年前の田原町時代の図書館建築に関して原稿を書いてほしいと依頼されまして、当時、町に初めての図書館をつくりたい、良い図書館をつくりたいと奔走された、図書館フレンズたはらの視点で、小澤さんたちにインタビューをさせていただき原稿を書きました。そこで私も、田原市中央図書館が多くの人たちの意見を取り入れ、市民が生き生きと活躍できるような設計思想のもとで建設されたことを知りました。今年はその20年間を振り返ることが出来るような展示や、市民の皆さんと楽しくお祝いできるような企画を実施する予定です。委員のみなさまにもスケジュールをお知らせしますので、ぜひご参加いただけ

ればと思います。

さて、年度が替わりまして、図書館協議会の委員の方のうち、学校教育の代表として参加して下さっていた先生方が退職や異動で変更となりましたので、ここで紹介させていただきます。

令和4年4月1日の人事異動等により河合寛則委員長、本多幸代委員の後任として、令和4年4月15日付けで新たに委員の方2名が任命されました。

任期は、前任者の残任期間である令和4年11月30日までです。

ご紹介いたします。

河合寛則委員長の後任として、伊良湖岬小学校の鈴木美保先生

本多幸代委員の後任として、泉小学校の本田充弘先生です。

よろしく願いいたします。

なお、鈴木美保先生は、本日、研修のためご欠席となっています。

事務局：では、議題に入らせていただきます。ここからは副委員長である中島委員に議事の進行をお願いします。

副委員長：それでは委員長の選出につきまして議題とさせていただきます。田原市図書館の管理運営に関する規則第20条の規定により、委員長は、委員の互選により選出するとなっています。どなたかご意見ございませんでしょうか。

委員：今日欠席されていますけど、鈴木美保先生が適任かと思しますので推薦させていただきます。

副委員長：ただいま推薦がありましたが、鈴木美保委員を委員長とすることにご異議はございますでしょうか。

委員：(異議なし)

副委員長：ありがとうございます。ではご異議も無いようですので、鈴木委員に委員長をお願いしたいと思います。

それでは次に、次第にそって進めていきたいと思えます。協議事項1の令和3年度田原市図書館事業評価(案)について、事務局お願いします。

館長：(資料「令和3年度田原市図書館事業評価(案)」に基づいて説明)

この辺で切って、ご意見とかご質問があれば、お伺いしたいと思います。いかがでしょうか。

委員：3ページの学校図書館の電算化のところで。私はWITっていう女性のグループで活動をしているのですが、先日「議員とたはらトーク」を開催しまして、5人の議員が来てくれて、その話を出したのです。中学校1校と小学校1校しか電算化されていないと、学校司書さんが大変困っているということを伝えましたところ、議員は誰もそのことを知りませんでした。そのあと、議員から連絡があつて教育部へ行ってくれたそうです。そこの課長は、「それは重々わかっているのに、今年度はどこかの予算を流用するとかで、2校ぐらいやれば」と言っていたそうです。

館長：私の方でも聞いています。「認識はしているので、何とか進めていきますよ、という回答をした」と。これからまた、来年度以降の予算に向けて、いろいろ要望を出していく時期になるので、図書館協議会での意見も出ていることも併せて主張していきたいと考えています。

委員：(学校図書館の電算化は)教育総務課の予算なのか。

館長：本来は、教育総務課や学校教育課などの学校教育関連の予算で実施していただくのが筋かなと思うんですけども、今までずっと(予算が)付いていない状況です。各校に割り当てられる予算もすごく少なくなってきていて、優先順位的になかなか難しい状況なので、図書館の方の予算として、図書館のシステム更新と合わせて、全ての学校に導入する要望を出してはいるのですが、全校だと大きな額になるので、そうするとなかなか(予算が)つけられない感じになっている。

委員：校長先生に会いに行つて電算化を入れてもらえないかとお話したら、やっぱりそれほど切実な問題だと認識していないようだった。

館長：先生の印象はどんな感じでしょうか。

委員：図書担当の先生と、学校に回ってきていただいている司書さんが学校図書館の運営を回している感じなので、そのほかの先生が(司書が)どれだけ大変なのか、多分校長先生にもあまり伝わっていない。

館長：今まで電算化されてなかったもので、電算化されている状態っていうのを知らない先生方が多いのだと思うんですね。なので、今までも何とかやれているから、いいんじゃないの、みたいに思ってるかもとは思うんですけども。だから、生徒数が多い学校の学校司書さんは本当に大変で、貸出の時に紙に書いてもらう手間だけで時間が過ぎてしまうので、子供たちがゆっくり本を選んだり、そういう時間を取れなくなっている。

委員：実態があまり伝わってないってことです。事務サイドは知らないことが多い。いまだに手作業で、自分が担当されている学校図書館の蔵書の内容は私の頭の中に入っていますとおっしゃっていた。問い合わせをもらった時など、事務手続きが初めからやらないといけないから、とても非効率的だと思う。しかも、学校図書館は教室から遠いから、それなら生徒は来ないですね。

館長：今、GIGA スクールで無線 LAN が入ってきた関係で、学校司書さんたちが使っていたインターネットのパソコンが使えなくなったようで、書店に注文するのも、FAX に戻ってしまった。タブレットも学校司書に渡ってなくて、時間が経って子供の数が減ってくれば、司書にも回ってくるかもって言ってましたけれど、なかなか大変な状況の中で仕事をしている。

委員：中学校の学校司書がいつも言っているのは、自分が使うためのパソコンもお借りしないとけない。学校の先生の業務は大変なので、時間が空いたときに申請をしてそれを使わせていただくってようなことが起こってしまうので、気を使うし、使わせていただく時間も気にするから、やっぱりもう、パソコンを使わないで何とかできないかってことを考えてしまうってようなことで、しかも皆さん1校じゃなくて複数校、多い方は3校（掛け持ち）だから、時間もないし、ということになってくる。

委員：4 ページの赤ちゃんサロンとか親子交流館の話し合いの中で、置いている絵本の数が少ないと言うのです。確かに少ないです。要望を出してないのかなと、この数字を見て思いました。

館長：団体貸し出し制度があるので、親子交流館で団体カードを作られて、たくさん借りていただければいいんでしょうけど、管理面とかを考えて、ちょっとそこまではって思ってるかもしれない。

（続けて資料に基づいて説明）

では、3、4、5のところでは何かご意見などありますでしょうか。

委員：全般的にすごくいいことやってるなと感心したのですが、一方で、それをきちんと PR ができてるのかなっていう。僕、家が豊橋なので情報が入りにくいんですけど、ほとんどやっておられることが、知らないことが結構多くて。例えばですね、この3-1-1の地域資料の調べ方なんかは、この体験会なんか面白そうだなって思うのですが、実際に何回実施して、何人ぐらい来たのでしょうか。

館長：これは1回だけ、3月にお披露目会っていう形でさせてもらったんですけども、実際に来られた方は、10人も来てないんじゃないかな。おっしゃること

は、私たちも尤もだなと感じています。プレスリリースに出して、新聞にも載せてもらったりとかはしてるんですけども、それでもやっぱり、知らないっていう方も多いですね。特に東愛知新聞とか東日新聞さんには結構載せていただいて、渥美の図書館の展示とかも載せてもらったりとかしてるんですけど。

委員：新聞自体はもう購読数がかなり減ってきていて、新聞に載っても影響力が少ないんじゃないか。

館長：市の職員は新聞に載ると、載ってたねって見てるんですけど、若い世代の方たちとかがなかなか見ていないですね。

委員：むしろ、攻めのPRなんかで、使ってもらうことによってPRするみたいな何か新しいPR方法っていうのが出ないと、旧態依然と新聞に載せたり広報に載せたりっていうのは……

館長：そうですね。YAROMAIさんたちは口コミっていうか、図書館でこんなことやってもらえるみたいだよ、みたいなことを聞いてきて、持ち込み企画を持ってきてくださったりしている。

委員：Facebookでは投稿がいっぱい来るから、こんなのやるんだとか、こういうのやったんだというのは本当によくわかるんですよ。

館長：YAROMAIの人たちはLINEかinstagramをやってほしいと言っていた。図書館はtwitterとFacebookは頑張ってるんですけど。

委員：いろいろあると更新するのが大変ですよ。YAROMAIさんのやり方を見てみると、自分の範疇の手の届く人達にすごく拡散するんですよ。一番そのコアになる人たちが集まってるところに流さないとはっきりしたリアクションをもらえないような気がしますね。

館長：この地域のインフルエンサーみたいな人ですね。

委員：そういうインフルエンサーみたいな人を作るというのは、一つの方法。ロータリークラブとかも、あまり変化がないのかなと思っていたら、会長になる方が今までは90歳の方もいるっていうのに、いきなり50代になったっていう。意外ともう、皆さんの中にも、若返らせて活性化しないと、もうもたないよっていう危機感が出てきている。図書館みたいに、いろんな新しいものをちゃんと受けられるような土壌があるところは、冒険でもいいから、やっちゃった方が良い。

館長：メディア掲載の指標も、新聞に掲載されること以外にも、リツイートされた数とか、そういう今どきの指標があるのが良いのかもかもしれませんね。

委員：行政向けには今のままでいいけど、実際は、ちょっと違うことを考えたらどうだろう。せっかく連携団体も多くなってきているし、そういう人が関心を持ってくれているから。

館長：研究をしてみたいと思う。

委員：田原は結婚して、30代くらいで帰ってくる人も多いんですよね。同窓会をやると充実すると言ってました。都会でIT関係の仕事をしていた人とかが、家族を連れて帰ってくる。住みやすさを強調できるような、何かしら関わられるような、体験ができるようなことがあると自然と増えるのじゃないのかなとは思いますが。

委員：例えば私のところに来る移住者は、空き家情報だとか、仕事情報を知りたいのだけれども、公的な空き家情報っていうのは非常に限られているし、更新がそんなにされてないし、本当に知りたい情報はそこでは手に入らない。不動産屋に行かないとわからない。行政がデジタルを使って、インターネットを使って、市民サービスをどのようにしていくのか。図書館に限らず、福祉のことにしても、移住政策にしても、バイオマス事業だとか、それから、渥美半島道路の問題なんかも、どこまで市民が知ることができるのかっていうのは、全体の問題として考えたほうがいいのかと思う。若い人たちはとにかく情報はスマホですよ。なんでもちょっと知らない言葉があると、すぐ検索する。私たちの世代は無い現象だけど、避けて通れないですよ。

館長：田原市全体でも、DX、デジタル化を推し進めている。

委員：移住してきた人に聞いたら、ご主人が東京でプログラマとかやっていて、疲れちゃったんで、奥さんの実家がある田原に戻ってきた。ここに来てみたら、別のことを木工とかスキルアップがしたいと。学べるところありませんかと聞かれた。役所で聞いたらありませんと言われたそう。

館長：行政がそういう情報を持ってないっていう、集約してないっていうところもあるんでしょうけれど。よくマッチングの仕組みを作ったり、プロボノとかも聞きますが、うまくいっている自治体ってあまり聞かないような気がする。

委員：上手なマッチングが出来ると良いですよ。住むところとか、自分がやれるよう

なことを探したいっていうときに、もう少し情報があると。子どもさんがいる家庭なら、保育園の情報とかもアドバイスがもらえるような。

委員：行政って市民の現場の声が分からないところもあるんですよね。もう一つは、今そういうのが課題になっている中で、行政に言ってもなかなか難しいものがあるんで、本当にそういうことを考えるのであれば、まさに図書館協議会とか、こういう場を通じて、図書館の何かに入れ込んで、自らが実践するみたいなことを考えないといけない時代なのかなと思う。市役所はやってくれないとか、そういう話はこれからは難しい。

館長：プラットフォームみたいなものは行政の方で作って、情報をどんどん入れていくのは市民の方たちとか。その情報の信頼性の高さとかを、今だったら、いいねの数が多いと上がるとか、そういう仕組みづくりができればいいのかなと思います。

委員：ボランティアのアンケート結果を見ても、女性が100%で男性がいない。こういうのに男性がもっと入ってきたら良い。控え目なのか、何かきっかけがないので、きっかけづくりをしてあげるとか、そういうことを考えることも必要なのかな。人生100年時代ってよく言われるけど、定年退職してからが長いから、こういうボランティアに入って新しい人と知り合って、何か新しい自分を見つけるような場を提供してあげると良い。

館長：結構、年配の男性よく来てるのですが、あまり繋がりがたがらない感じなんですよね。1人で来ている人が多くて。
(続けてアンケート調査の結果を説明)

委員：まとめた内容が素晴らしい。すごく充実している

委員：アンケートは何年に1回とかの頻度で実施する予定なのですか。

館長：毎年アンケートは実施する予定ですが、今回のようなたくさんの項目ではなくて、経年で見えていく方が良い項目や、その年に聞いてみたいことが新たに出れば加えたい。

委員：一般の人にも結果を見られるようにするのですか。

館長：今回のこの事業評価に、アンケート結果をつけてホームページで公開します。

委員：利用者アンケートの9ページの、施設・設備についてというところで、たくさんの方が清潔できれいだということ褒めておられることが、すごく素敵だと思う。どんな施設でも、道路や景観にしても、ゴミが落ちていたり、草がぼうぼうだったり、トイレの掃除が行き届いていなかったり、ペットボトルや空き缶が落ちていて、そんな景観を通ってくるたびに心が折れるというか、田原はもっとそんなところに気をかければ良いのになって、私だけそう考えているのかと思っていたけど、わりとみんなも思っているのだから、アンケートの文章を読むとわかった。綺麗なおとこにはやっぱり人が集まるし、綺麗なおとこでは心が落ち着くし、癒されるし、そういう美的感性って、情操教育ですよ。

委員：大人にとっても大事ですよ。建設当初はスーパーもあって、立地条件は最高だねと言われたんですけども、皆さん、ごみ箱があると思ってるから、みんなわからないところに、ゴミをねじ込んだりして突っ込んであったり、そんなことは日常茶飯事だったんですよ。あの頃は今とは違って、ゴミを持って帰るという選択肢はなかった。何かそういうようなモラルの先取りみたいなことを、20年前にしたのだなと思います。

委員：トイレに花が飾ってあることは、いつも私も「ありがとうございます。」とっていた。これは、ボランティアさんがやってくれるのか。

館長：シルバー人材センターの掃除の担当の方々やってくれている。

委員：何気ない心遣いっていうんですか、そこに人間性が現れて、施設の精神が現れているように感じる。

委員：お金をかけた高価な花が飾ってあるのではなくて、ちょっとしたお花が飾ってある感じだと思う。

委員：アンケートにあんまり悪い意見も無いですね。ファンが多い、本当に。

館長：ご要望っていうのはあるけど、それはまあ、好きで来ていて、もっとこうなって欲しいというのがあるのかなと。

副委員長：ありがとうございました。それでは、協議事項の2番目に移らせてもらいます。令和4年度田原市図書館事業計画（案）についてお願いします。

館長：（資料「令和4年度田原市図書館事業計画（案）」に基づいて説明）

委員：PR に関して、図書館のホームページは、庁内全体のシステムに組み込まれているのか。もっと見やすくじゃないけど、垢ぬけてできないのかな。

館長：市役所のホームページとは別で、図書館独自で手づくりで HTML を打って作ってまして、コンテンツマネジメントシステム（CMS）を使っていなくて、スマホで見たら見にくいとか、対応してないという状況です。
ウェブサーバーを図書館システムと分けて独立するよというということで、今の形になっているんですけども、本来よくあるのは、図書館システムと一緒にして、業者さんにある程度、基本的な形を作ってもらって、コンテンツマネジメントシステムを使って職員が簡単に更新するみたいなふうになっているところが多いのですが、ちょっとそれができていないです。

委員：アンケート結果でもホームページが結構見られてるし、スマホから便利に見れたり、ホームページ自体が見やすくなっていたりというのは、PR の課題の中の解決方法としてあるのかなと思う。

館長：そうですね。検討しなければならないと認識しています。

委員：大きなかぶのまとめなどは、ホームページに載せることはできないのか。

館長：今ホームページに掲載しています。

委員：図書館のホームページがこうやって使えますよっていうような、やってみたら便利っていうふうに、利用者が気付けるような、案内があると良いのでは。

館長：データベースの使い方講座とかに含めて、図書館ホームページの便利な使い方とか、OPAC での本の検索の仕方が出来れば良いと思うのですが、多分やったとしてもそんなに人が集まらなさそうな気はするんですけどね。だから何かのイベントと一緒に合わせて、やるとかだと良いのかなっていう気がします。

委員：SNS とか、twitter とかの数字が書いてあるが、これはどういう数字なのか。

館長：Facebook とか twitter っていうのは、そういう SNS のサービスなんですけれども、田原市図書館が図書館としてアカウントを持ってるんですね。それを登録しておく、田原市図書館が更新をすると、自分の画面に表示されるという、登録をしている方の人数っていうふうに考えていただければ。

委員：Facebook はわかるけれど、twitter というのはどういうものか。

館 長：twitter は140字ぐらいの短い文章でやりとりしているのですが、Facebookよりも、皆さん本名ではなくてニックネームみたいなもので気軽に登録しているので、誰なのかがよくわからないけれども。田原市の他の公式アカウントに比べると図書館のフォロワー数は多い方だと思います。なので、行政のアカウントとしてはある程度の発信力はあるといえる。

委 員：発信者は図書館関係者が多いのか。

館 長：発信するのは図書館が公式のtwitterで発信してるんですけども、フォローしてくれているのは、個人のアカウントが多いです。田原市の他のお知らせとかも、図書館の公式twitterで発信しているので、私はこれで田原市の動きをキャッチしています。これも、今どきの若い人からしたら、やっぱりInstagramとか公式LINEとかそういう方が良いついていうこともあるのかもしれないですけど、担当している職員がそんなに多くないので、いくつも操作するのはちょっと大変かなくなっていうところもあります。

委 員：小学校の先生に質問ですが、最近中日新聞なんかは、新聞の読者が少なくなって、教育報道部というのを作って、毎日のように小学生とか中学生あるいは、高校生など若い世代のコーナーを作って発信しているんですよ。生徒以上に、教員があまり新聞を読んでないでしょ。昔は僕らのころは新聞が有力な教育手段として日常的に使っていたこともあるんだけど。どうですか、その辺は。

委 員：そうですね確かに、昔に比べれば、新聞を取っていない家庭も増えてきているし、学習例も新聞を使ったっていうのはあるんですけども、今はそれ以上に、インターネットで調べ学習をどうするかとか、そちら側の方が結構多いと思いますので、新聞っていうところに関して、今までよりも、確かに比重は軽くなっていると思う。

委 員：このごろLINEとか、SNSを非常に若い人はとらえているよね、私が恐れているのは、分断社会ですね。要するにSNSの世界は自分の興味がないものは一切見ないですわけですし、一応、一覧性っていうのがあって、自分と違った意見、考えのものを見て検討せざるをえないこともある。好みの人だけがかたまってるね。新しい意味での鎖国というかね、自分の好みの身内だけがかたまってる、少数の仲間だけで、それ以外の人に対して全く無関心というか、非情な、そういう状態が、アメリカですでに起こっているんですよ。アメリカで民主党を支持している人は共和党のことを一切見ないとかね。日本も成り行きに任せれば、そういうことになってくるんじゃないか。そういう危機意識を持っています。

委員：何か言葉を調べるにしても、ネットを使って、パッと調べれば、すぐに出てくるんですけども、本当にその言葉だけ。私も若いころに言われていたのが、辞書で調べれば、その周りの言葉とかも一緒に目に入ってきて、学習することができたけれども、ネットだとそれだけになってしまうので、視野が狭くなるというか、たまたま見つけたものに興味が見つかって学習力に繋がっていくということもあるので、ネット環境を使ったものも大事だけれども、やっぱり本も大事にしていけないといけない。学校の中でも、そういうことに気をつけながらやっている。

館長：文部科学省の方で、5ヵ年計画で、図書館整備に関する予算措置として、小学校2誌、中学校3誌、高校は5誌、5年間で190億円の地方財政措置を講じているというニュースが出てましたね。

委員：情報リテラシーの観点で言うと、複数の情報に当たって、比較検討をするということが大事で、そういうのはやっぱり図書館が担う重要なところじゃないかなと思うのです。一つのテーマに対して多様な見方ができる。正しさっていうのは一つじゃないので、いろんな観点から物事を見て、自分の知識と総合して、自分なりの考えをつくっていくものだと思います。図書館はそういう多様な意見を収集する大切な役割がある。

副委員長：では、協議内容は以上となりますので、事務局にお渡しいたします。

事務局：それでは協議会としてはこれで終了させていただきます。ありがとうございました。